

平成 28 年度 JICA 研修 災害に強いまちづくり戦略
- JICA Strategy for Resilient Societies to Natural Disasters -FY2016



研修期間：平成 29 年 1 月 9 日～2 月 25 日（7 週間）

研修場所：神戸市/岩手県/宮城県/広島県

研修内容：各国の状況に即した災害に強いまちづくり戦略を立てることに資するため、災害マネジメントサイクル（Disaster Management Cycle）の視点から、初動・応急対応（Relief・Response）、復旧・復興（Recovery）、減災（Mitigation）、予防（Preparedness）の各フェーズにおける有効な手法・取り組みを学ぶ

参加研修員： 11 ヶ国 13 名（ミャンマー、ネパール、セントクリストファー・ネービス、チリ、トルコ、マレーシア、フィリピン、トンガ、ホンジュラス、アルメニア、パプアニューギニア）

当財団では、独立行政法人国際協力機構（JICA）からの委託を受け、公益財団法人神戸都市問題研究所の協力の下、自国で防災計画策定に関わる 11 ヶ国から行政官を迎え、7 週間の「災害に強いまちづくり戦略」研修を実施しました。

本研修は、1995 年の阪神・淡路大震災、そして、2011 年東日本大震災等、我が国の過去の大災害における教訓・経験により、明らかになった自然災害に強いまちづくりの要素を参加国の研修員と共有することにより、各国の社会的背景を踏まえた、災害被害の軽減に資するアクションプランを研修員が作成し、そして、自国において災害に強いまちづくりのため防災計画策定に活かすことを目的とする。この研修は災害マネジメントサイクルをもとに、「初動・応急対応」、「復旧・復興/減災」、「予防/防災教育」について、週ごとに学ぶように構成されており、それぞれのテーマに沿って様々な実践的な取り組み等について、神戸市関係者や地方自治体関係者などにご講義を頂きました。



研修最終日の閉講式にて



~~~~~研修を振り返って~~~~~



今回の3年目の研修は座学だけではなく、東日本大震災の被害を受けた岩手県、宮城県、また、2014年に甚大な土砂崩れ被害を受けた広島県安佐地区の土砂災害現場も視察しました。

研修前半では、1月17日に東遊園地で開催された阪神・淡路大震災の22年追悼行事「希望



研修員一行が1月17日に東遊園地で開催された阪神・淡路大震災の追悼行事「希望の灯り」に参加しました。

の灯り」に参加され、そして、各研修員自身の職務内容や自国の災害情報などを共有しあう「ジョブレポート発表会」の実施により、研修員の間でお互いの国の状況について情報共有をされました。また、日本で最初にできた環境防災科をもつ兵庫県立舞子高等学校を訪れ、学生のみなさんに防災活動内容を発表してもらい、先生に環境防災科のカリキュラムについても、ご説明いただきました。

そのほか、神戸市の危機管理体制や、避難所・仮設住宅、災害広報、また、災害時のジェ

ンダー問題についてなど、神戸市の関係部局やNPO法人の方を講師として招きました。そして、三木市にある広域防災拠点を見学した際は、研修員が火事を想定「煙体験訓練」を体験されたり、地震のゆれが体験できる起震車に乗り、阪神・淡路大震災や、東日本大震災の際と同じ揺れも体験しました。また、備蓄倉庫に備蓄されている災害時に配給される救援物資（食料、毛布など）について関係者にそれぞれ説明を受けました。

昨年に続き、今回の研修では、各週の最終日に学んだ内容を振り返る時間を半日設け、研修員に何を学んだか、また、学んだことが自国で



研修員 Job Report の発表

どのように活用できるかなどを書き上げてもらい、みんなで共有しました。講義や視察を通して知識を深めるだけでなく、学んだことを整理する時間をもつことで、よりよい理解につながったと思われます。

研修の中盤では、被災地の現場視察とし、研修員が3泊4日で東北へ行きました。岩手県釜石市、宮城県南三陸町、東松島市を訪問し、行政の方に当時の被災状況、その後の復興計画や復興段階での課題などについて、お話いただきました。釜石さいがいエフエムの視察では、行政からの委



「イザ！カエルキャラバン」

研修員が楽しく防災知識を身につけるイベントに参加された

託を受けた地元ラジオ局がどのような情報を住民への発信、また、南三陸町観光協会の語り部ガイド後藤氏の被災経験談も生々しく、研修員の心に深く刻まれた。そして、東松島地域復興推進員、住民の方との意見交換の時、住民の方にも研修員の国の災害事情を知ってもらうため、チリとフィリピンの研修員にそれぞれプレゼンしていただきました。

そのあと、研修員から住民の方に当時の避難状況、平常時防災意識の教育、地区内での防災訓練、そして、観光業被災前後でどう変化したのかなど、様々な質問がありました。このように、研修員と住民の方々が、お互いの状況を共有しあうことができ、有意義な時間をもつことができました。

研修の後半では、神戸の震災後の復興過程として、JR 六甲道駅南側・北側で実施された再開発事業や区画整理事業についての講義を研修員が受けたあと、それぞれの知識と経験を活かし、道路をどう配置するか、公園をどこに配置するかなどみんなで話し合いながら、自分たちの復興まちづくりの計画を作り上げました。完成した計画は、講師に評価をいただいた後、研修員が実際の再開発事業、区画整理事業で整備された六甲道エリアも視察しまし



研修員が復興まちづくりに真剣に取り組んでいる様子



JICAより研修員に修了証明書の交付

た。

また、神戸の各小学校地区単位で結成されている住民による自主防災組織「防災福祉コミュニティ」(通称、「防コミ」)について、防コミの統括をされている神戸市消防局の担当者から、結成背景や行政からのサポート内容についての講義や、実際に灘区魚崎町で活発に活動している「魚崎町防災福祉コミュニティ」のメンバーの方々から、活動内容についてご講義いただき、住民がいかに災害に備えて活動をしているのか理解を深めることができました。

研修の最終段階アクションプランの前に研修員一行が広島を訪れた上、豪雨で被害を受けた広島県安佐地区の土砂災害現場を見学しました。

こうして、講義・視察を通じて、日本で学んだことを自国でどのように活用し、実践していくかについて、13名の研修員全員が、アクションプラン(研修員自身の業務上抱える課題解決のための行動計画)を作成し、研修最終日に発表しました。世界中で自然災害が多発する現在、研修員がこの研修で得た知識・経験を今後、自国の災害に強いまちづくりに活かしてくれることを期待しています。

研修担当：事業課 井手 加奈子



pixta.jp - 23787353



pixta.jp - 22045855

委託元機関：独立行政法人国際協力機構(JICA)関西国際センター

研修指導機関：公益財団法人 神戸都市問題研究所

講義/視察先：神戸市、神戸都市問題研究所、アジア防災センター、人と防災未来センター、兵庫県防災企画課、兵庫県教育委員会事務局、兵庫県広域防災センター、プラスアーツ、多文化と共生社会を育むワークショップ代表、全国災害ボランティア支援団体ネットワーク準備会(JVOAD)、ひょうご震災記念 21 世紀研究機構、釜石市総務企画部広聴広報課、(株)エフエム岩手釜石支局、釜石市復興推進本部事務局、釜石リージョナルコーディネーター協議会、(社)南三陸町観光協会、(社)宮古観光協会、奥松島観光ボランティアの会、東松島市移転対策部、野田北ふるさとネット、森崎建築設計事務所、防災インターナショナル、兵庫県こころのケアセンター、大阪管区气象台、兵庫県立大学、京都大学大学院、立命館大学、奥松島観光ボランティアの会、京都大学大学院、野田北ふるさとネット事務局、森崎建築設計事務所、NPO 法人 国際ふるさとの森づくり協会 (ReNaFo)、国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所、国土交通省中国地方整備局太田川河川事務所、神戸すまいまちづくり公社、神戸市消防局、魚崎町災福祉コミュニティ、兵庫県立舞子高等学校、兵庫県立松陽高等学校、六甲道駅北地区公園管理会、ホテルオークラ

【順不同、敬称略】



pixta.jp - 23841101